

私たちが考える万博

第8回
「万博のあり方」を考える

コロナ禍を戦後システムの「グレートリセット」と位置付け、世界は新たな道を歩み始めている。コロナ禍を「過性のもの」と考えるのではなく、日本も新しい社会のあり方を模索するべきではないだろうか。「過去に学び、未来へとつなぐ」。日本らしくて新しい生活のスタイルを大阪・関西万博で発信するために、その根本となる考え方を振り返りました。

構成 加藤しのぶ



池永寛明

いけなが ひろあき

大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所顧問。1955年、大阪市生まれ。82年大阪ガス入社後、天然ガス転換部にて人事勤務、営業部門にてマーケティングに関わる。日本ガス協会にて企画部長として、エネルギー・環境制度設計対応を担務。大阪ガス入社後、北東部エネルギー営業部長、近畿圏部長を経て2016年に同研究所所長に。2019年より現職。近著に『日本再起動―パラダイムシフトの群像 Case 002』。

「コロナ禍リセット後の万博」であることを忘れてはいけない

先日、大阪・関西万博の出展参加説明会がありました。オンラインで開催され、2100を超える企業・団体から約4200人が参加したようです。と言うと2025年の開催に向けた歩みは着実に進んでいます。その一方で「万博どころではないのでは」という空気が、特に経済的な見通しの立たなからくる懸念が社会に流れてもいます。コロナ禍後の万博について、私は以前より開催すべきだとお伝えしています。2020年以来長く続くコロナ禍のもと、先の見えない不安は未だに続いています。そういう状況下であるからこそ、前号でとりあげた大阪記念博覧会のように、先行き不透明な社会の導きとなるような万博とすべきです。

コロナ禍のなかで違和感を覚えることがあ

その中で、社会的価値観も当然変わってきます。「ワークがどう、ライフがどう」ではなくそれぞれの人が「どう生きるか」が重要になってくる。そうすると当然、街の姿も「街が人を「集める」」形から、「人が街を「つくる」」形へと変わります。「技術」から「人」へとまちづくりの主体が変わるわけです。

コロナ禍後の万博は、そういった社会的価値観の変化を置き去りにしてはいけません。新技術を総動員したハードを進化させた社

ります。コロナ禍で大きな影響を受けているにもかかわらず、万博の検討だけではなく企業で議論されるコロナ禍後の戦略が、ともすればコロナ禍前に戻り、「これからの社会はDXだCXだ」といったような技術偏重となっています。これも繰り返しお話ししていることですが、コロナ禍は明治維新、第二次世界大戦後に続く近代以降3度目の大断層(リセット)です。社会システムが大きく転換する時期です。それなのに、未だにリセット前と同じ視点、発想で考えているのです。世界がコロナ禍を戦後システムの「グレートリセット」と位置付けて大きく動き出しているのに対して、まだまだ日本では「一過性のもの」であり、収束すれば元に戻る」と考えている人が多いためでしょう。コロナ禍後であっても「新たな技術が社会・生活をどう変えるのか」という立脚点から離れることはありません。本来は「こういう社会・生活を実現

会・世界の提案ではなく、「人」を主人公とした「よりよき生き方」「街のあり方」をどのように伝えられるか。大切なのは意識の改革。人が中心となったコロナ禍後社会を多様なメンバーで多面的に考えることが必要です。

過去に学び、未来へとつなぐ万博に

図2はあくまで私案ですが、2020年代はコロナ禍が収束した後もその社会影響が続

現するために、どのような技術を使うのか」と考えるべきなのに、むしろ技術と社会のつながりがどんどん離れていることに疑問を感じています。

コロナが収束してもコロナ禍前の社会に戻ることはありません。「以前通り」ではなく、コロナ禍後という社会システムの転換期に開催するという、「以前通りではない」万博であることを忘れてはいけません。

主体は「人」
――急務なのは意識改革

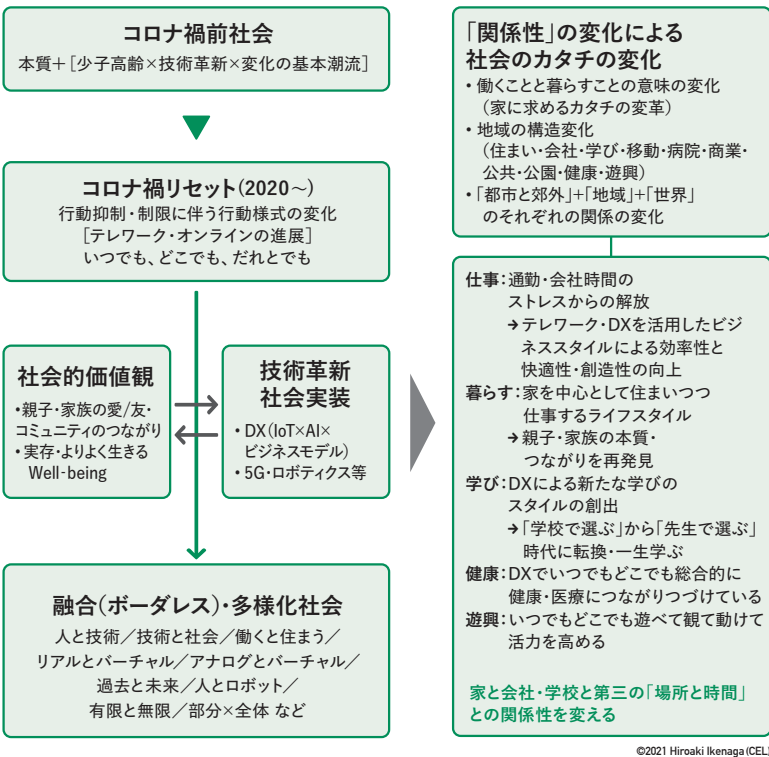
コロナ禍によるリセットの本質は、テレワークによる「場と時間」の構造の劇的な変化にあります。ここでテレワークを単なる働き方の変化と捉えたと本質は見えてきません。テレワークはワークとライフを融合し、人々との関係性を変えました。コロナ禍後の社会は図1のように大きく変わりつつあります。

く「コロナ時代」となると考えています。その真ん中の時期に開催する大阪・関西万博は、先ほどお話ししたような「人」が主体となつて躍動するような社会をもたらしものであるべきです。そのためにはどうするか。それこそ、私がこれまでお話ししてきた「過去から承継される本質に学び、未来へとつなぐ」という作業が必要になります。

たとえば今夏行われた東京2020オリンピック開会式でのパフォーマンス。パフォーマンスの方々の熱演は素晴らしいものですが、構成そのものはどうだったのでしょうか。ゲームやマンガ、歌舞伎、江戸の火消しに木遣り歌……日本を象徴する事象をただ並べただけでバラバラな印象を受けました。過去と現在がきちんと接続されていないためにそれらもつ意味がわからないものとなっており、世界に知らせるべき日本の素晴らしさが伝わっていないと私には感じられました。これは今、知的基盤が薄れ、歴史、文化を学んで総括したうえで、次代につなぐというプロセスが機能していないために起こっています。

大阪・関西万博で同じ轍を踏まないためにも、世界に伝えるべき社会を捉える発想の転換と、本質の再起動の重要性を訴えたいと思います。

■ 図1：コロナ禍後、どんな社会になっていくのか



■ 図2：2020年代はコロナ禍の社会的影響が続くコロナ時代

